鶏パーティーへおいでよ

農業交流ネットワーク
&
有機農業研究会

今年のNFでも、恒例『鶏パーティー』をやることになりました。

鶏パーティーとは……毎年、北部キャンパス・農学部本館前でニワトリのさばき方の実演をしつつ、新鮮なトリ肉でカレーや焼き鳥を作ってみなさんに食べてもらおう……っちゅう企画。まあ要するに公衆の面前で生きたトリをしめ殺し、バラバラにして食っちまおうってことですわ、ハハハ。……えっ？気持ち悪いだって？バカを言っちゃいけません、これでもちゃんと考えあってのことなんです。

みなさん、普段食っている肉というもんはどっからやってくるか知っていますか？今やスーパーに大量の精肉が並んでるだけの時代、人間の生がいくつもの死によって支えられていることを実感できる場所が、本当に少なくなってしまいました。また、肉はおいしいだけに、非常に貴重なもので、かつ贅沢なものでもあります。今後、食料問題という壁があることを考えても、肉というものがどこかの動物の悲鳴の下にあるということを実感するのは、けっこう重要だと思いません？ね？

まあ、理屈はいいんです。おいしいトリ肉をみなさん一緒にいただきましょう。日時は十一月二十三日（日曜日）十二時から三時頃まで、売り切れ次第閉店。場所は京大北部構内、南北通用路を通ればきっとわかります。あつあつトリ料理四種類の他、日本酒や百円の焼き芋（オススメ）も提供します。

興味津々の人も、腹のへった人も、単に血に飢えている人（？）も、少々遠いこの北部キャンパスに来て損はさせません。是非お立ち寄り下さい。

主催は農業交流ネットワークと有機農業研究会です。売り切れが毎年早いので、お早めに。

講演会

知られざる中南米の農民達

ートゥパク・アマルはどこから来たかー

講師　崎山政毅氏（京大農学部教官）

昨年十二月十七日、駐ペルー日本大使公邸をMRTA（トゥパク・アマル革命運動）のメンバーが占拠するという事件が発生した。日本のマスコミにはほとんど注目されないこの国が、日本人の外交官や現地の日本企業の社員が人質になったことなどから大きく報じられたので覚えておられる方も多いと思う。事件そのものは今年四月二十三日の政府軍の突入によってMRTAの公邸占拠メンバーの全員射殺（政府軍は二名が死亡）という形で幕を閉じた。この間多くのマスコミはMRTAを「残酷なテロリスト」として報道する傾向があり、MRTAがなぜ決起したのか、あるいは日本企業の社員達がなぜ人質とならねばならなかったのかということについては余り触れられていなかったように思える。反対にアルベルト・フジモリ　ペルー大統領については反対者への弾圧など強権政治についてよりも「強いリーダー」であることについて強調されていた。

しかし、MRTAは単なるテロリストで、フジモリは英雄で、日本大使と日本企業の面々は被害者なのだろうか。MRTAは囚人の待遇の改善などと含めて声明の中でフジモリ大統領の取る新自由主義政策をやめることを訴えている。この新自由主義政策とはどういったものなのか、この政策の下で農民はどのような影響を受けたのか、日本に住む私たちとこれらの人々とはどのような繋がりを持つのか。今回の講演の中で明らかにしていきたい。

マスコミや政府の描いた人質事件は事実の一部分のみを描いたものである。この講演を聞いてマスコミの語らなかった「ペルー日本大使公邸人質事件」について考えましょう。その上であの事件が時代遅れのテロリストの犯行なのかどうか判断してみて下さい。日時は二十一日（金）二時から農学部総合館W－一〇〇教室です。

農学部十一月祭実行委員会企画

講演会

地域自立をどうするか

講師　神田浩史氏

十一月二十四日（休）二時より農学部総合館W－一〇〇教室にて。

国際的な援助はこれまでその理念も方法も様々な形で行われてきました。ある時は現物であったり、資金であったり、またあるときは無償であったり、有償であったり、あるいは援助する側の利益を生み出すためのひも付きのこともあります。

日本のODAはアメリカ合衆国を追い抜いて金額の上では世界一になりましたが、援助される側の利益よりも自国の利益を生み出すこのひも付きの援助が主流であるとして長く批判の対象になってきました。

その間、国際的な援助は様々な方法の試行錯誤の結果、援助を必要としている地域の自立を支援するという援助の在り方が主流になっています。そして日本のODAでも徐々に地域の自立の支援が主流になりつつあります。

では、この「地域の自立」とはどのように行われ、そしてどうしていけば良いのでしょうか。現在各国の地域自立の支援では様々なNGOが関わっていますが、その関わり方については…。この講演の中で「地域の自立」の方向性が示されると思います。

講師の神田浩史さんは、かつてODAに参加してその舞台裏を知り、現在は京都府の山奥で百姓暮らしのかたわら、日本のODAの方向性や地域自立の在り方を研究しておられます。

ODAやNGOのことにそれほど詳しくない方でも是非御参加下さい。単に海外への援助の在り方についてだけでなく、自分たちの地域について見つめ直す機会になるかもしれません。

その他の主な講演企画等

★21日（金）

●シンポジウム　模擬COP３
主催：国際協力ゼミ
13時30分〜　　法経８番教室

●国際法模擬裁判　西井CUP
主催：国際法学研究会
時間未定　　経済特別講義室

●クローン研究は何を目指しているか
講師：山田雅保
主催：粋な科学の会
13時〜
工学部８号館共同第１講義室

★22日（土）

●脳と心
講師：坂野登
主催：科学論研究会
14時〜　　法経２番教室

●右脳志向から全脳志向へ
講師：石丸裕高
主催：ワンブレイン研究会
14時〜　　法経６番教室

●宇宙の観測
講師：斎藤衛
主催：宇宙物理学教室の院生
14時〜
工学部８号館共同第１講義室

●ニッポン（ジン）って何やねん？
講師：趙博・小林万里子
主催：文学部11月祭実行委員会
16時〜　　文学部東館第１講義室

★23日（日）

●日本近現代の政治と軍事
〜日本外交の歴史的特質〜
講師：戸部良一
主催：国際関係論研究会
13時〜　　法経８番教室

●なぜ、いま「少年法改正」か？
講師：三木憲明
主催：刑事法研究会
14時〜　　法経２番教室

●生活習慣病
講師：未定
主催：医療研究会
13時〜
工学部８号館共同第１講義室

●ベンチャービジネスシンポジウム"できるかな？"
講師：未定
主催：経済学部赤岡ゼミ
13時〜　　法経１番教室

●国際連帯映画祭 1997（映画上映）
主催：同学会
13時〜
文学部東館第４講義室

★24日（月）

●開発と人権をめぐって
講師：松野明久
主催：アムネスティクラブ
13時〜　　法経３番教室

●歴史観論争を考える
講師：未定
主催：平和哲学研究会
時間未定　　法経６番教室

●映画祭典「ラスト・コンサート」（映画上映）
主催：11月祭本部
10時30分〜、13時30分〜
土木総合館

●国際連帯映画祭 1997（映画上映）
主催：同学会
13時〜
文学部東館第４講義室

39th Kyoto University November Festival

十一月祭本部公演企画

●医療保険・介護保険制度のゆくえ

講師：西村周三（京大経済学部教授）
日時：11月22日（土）午後2時〜
場所：法経５番教室
入場無料

今年の９月に、患者負担の拡大を中心とする健康保険の改正が実施された。しかし今回の改正はまだ序の口と考えられており、2000年前後にはさらに大きな改正を行うことが提案されている。他方で、介護保険制度が次の国会を通過しようとしている。このような中で、日本社会は依然として医師・患者関係、女性問題、雇用問題、などのひずみを抱えており、また、医療や介護についての国民の考え方自体に大きな転換が求められている。本講演では今後の国民自身のこれらの制度改正への取り組みの方向性について保険論を専攻されている氏に語っていただく。

●飛び級で本当に天才を見つけ出せるのか

講師：小島寛之（数学エッセイスト）
日時：11月23日（日）午後2時〜
場所：法経６番教室
入場無料

最近、飛び級という言葉を頻繁に耳にするようになった。高校を卒業せずに大学進学できる、そんなシステムが国で検討されている。果たしてこのシステムを導入することで、本当に日本の将来を変えることができるのであろうか。また、この導入で本当に学問をする人たちにいい影響を及ぼすことができるのであろうか。そのような疑問に対する是非を講師である小島寛之氏の見解から語っていただく。

●ワールドサッカーへの道

講師：瀧井敏郎（'97年シシリアユニバーシアードサッカー日本代表監督）
日時：11月24日（月）午後2時〜
場所：法経５番教室
入場無料

昔、サッカー界においては日本は弱かった。W杯のアジア予選でも一次予選で負けるほど弱かった。

しかし、近年日本代表はサウジアラビアや韓国らのアジアの強豪国とW杯出場権を争えるまでになった。４年前のW杯アジア予選ではドーハの悲劇に涙を流したものの、去年は五輪代表がブラジルを破った。そして今年、フランスW杯の出場をかけて日本代表は戦っている。

「たかがサッカー、されどサッカー」

競技スポーツが、どんなに計算された戦略のもとに準備され、チームが強化されているのかを知ってもらう事もスポーツ文化を理解してもらうためには必要だと考える。また、ヨーロッパのスポーツ施設やクラブ、また選手・指導者の育成について考えることも、日本の文化の発展にとって大切なことだろう。

●「味」のある料理

講師：服部幸應（服部栄養専門学校校長）
日時：11月24日（月）午後2時〜
場所：法経１番教室
入場無料

自炊している人にとっては日常生活の一部と化している料理でも、ちょっと工夫することによって趣味ともなるし芸術ともなる。

そんな料理の奥行きについて氏に語っていただく。ちなみに氏は永禄４年（１５６１年）より続く日本料理の血を引き継いでおり、日本料理について語っていただくにはまたとない人材であると考える。この講演を聞いてあなたがますます料理に興味を持ってくれれば幸いである。

講演会

夜を賭けて

〜この闇を見つめざるもの未来を語るなかれ〜

梁石日氏

アパッチ族、闇市、朝鮮長屋、朝鮮戦争・・・戦後の在日朝鮮人を取り巻く闇

講演を依頼した梁石日（やんそぎる）さんは、在日朝鮮人二世の詩人・作家である。一九三七年生まれで、今年でちょうど六十歳になる。梁さんは、一九七二年から十年ほどの間、東京でタクシードライバーとして働いていたが、そのときの経験をもとに書かれた小説『タクシー狂躁曲』が、九三年に映画化され（崔洋一監督『月はどっちに出ている』）、これがその年の映画賞を総なめにした。といっても、今回の講演はタクシードライバーの話ではない。それよりもずっと前の、大阪で過ごした子供時代から青年時代の経験を語ってもらう予定である。

講演のタイトル『夜を賭けて』は、梁さんのある小説のタイトルをそのまま使っている。この小説は、かつて七万人の工員を擁するアジア最大の兵器工場であった大阪造兵廠の跡地（現在の大阪城公園）で、一九五〇年代後半に、生活のために鉄塊を掘り起こしていた朝鮮人〝アパッチ族〟とそれを取り締まろうとする警察との攻防を描いた作品である。実際、梁さんは、友人たちと共に班を作り、つるはしやロープを引っさげて闇夜に紛れ鉄塊や鉄屑を掘りだしていたアパッチ族のひとりである。アパッチ部落を舞台にした小説としては開高健の『日本三文オペラ』などがあるが、梁さんが最近になって自分の経験を小説に書いた理由のひとつは、そうした小説が当時の在日朝鮮人がおかれていた状況を度外視しているからである。警察との闘いでみせたアパッチ族の生命力は、敗戦後の朝鮮人を取り巻く（朝鮮半島と日本の）絶望的ともいえる厳しい現実と不可分のものであった。朝鮮人が、五〇年代も後半の時期に、日本帝国主義の残滓を求めて廃墟をうろついているということのアイロニーを意識的に描かなくてはならないと、彼は感じていたのだ。『夜を賭けて』の後半部は、警察に捕まった主人公が、日本のアウシュビッツとまでいわれた長崎の大村収容所（韓国へ強制送還するために朝鮮人を収容していた特別施設）に送られ、そこを舞台に話は進んでいく。

今回の講演では、自分の生い立ちを語る形で、このアパッチ族の話や、大阪鶴橋の闇市で母親の商売を手伝っていた子供時代のこと、朝鮮長屋での生活のこと、また朝鮮戦争と自分の関わりなどの体験を話してもらう。梁さんは、若い頃から靴屋やバーの定員、宝石売り、さらにはポン引きやヒロポンの売人のようなことまで様々な職業を転々としており、また事業に失敗して金融暴力団にねらわれるような経験もしている人なので、そういった話も聞かせてくれるかもしれない。いずれにせよ、戦後の在日朝鮮人を取り巻く闇と、その中で生きる逞しい生活力とを伝える講演になると思う。

この他に、「在日朝鮮人に詩人は自分ひとりしかいないと思っていた」十九歳のときに、詩人の金時鐘（きむしじょん）と出会ってビックリしたときの話や、その後に参加した雑誌『ヂンダレ』が、文学と政治の問題をめぐって民族団体と対立したときの話などもしてくれるだろう。

この講演を主催する「民族学校出身者の京大への受験資格を求める連絡協議会」は、九四年の結成以来この長い名称どおりの活動を行っている。在日朝鮮人の民族教育は、植民地時代はいうまでもなく、戦後も日本政府や日本社会の厳しい弾圧を受けてきた（京大は直ちに民族差別をやめろ！）。

特に一九四八年・四九年には、敗戦後またたく間に日本中に作られた五百以上の自主学校のほとんど全てが政府によって非合法化され、警官隊による暴力的な学校閉鎖によって多数の民族学校が潰されていった。こうした弾圧に対し四八年四月、神戸では学校閉鎖に抗議する朝鮮人が、県庁に詰めかけ知事と交渉して一度は閉鎖令を撤回させた。同じ時期、大阪でも、一万人以上が府庁前で抗議集会を行っていた。しかしこうした動きの直後に、神戸ではGHQによる非常事態宣言の発令と千八百名の検挙がなされ、大阪では府庁前での警官隊発砲による中学生射殺などの事件が起こっている。当時、阪神地域を中心に日本の各地で生じた弾圧と抵抗を忘れないために、五十年目を迎える来年には、この教育闘争に関する企画をしようと考えている。今回の梁石日さんの講演会は、それに先だって、敗戦後の在日朝鮮人をとりまく状況の一端を語ってもらおうというものである。できるだけ多くの人間に参加してもらいたい。

民受連
主催

日時：二十四日（月）
　十七時〜
場所：文学部新館二階第三講義室
講演：夜を賭けて〜この闇を見つめざるもの未来を語るなかれ〜
講師：梁石日（やんそぎる）さん
主催：民族学校出身者の京大への受験資格を求める連絡協議会
料金：五百円

HOW TO GET THE CHEAPEST AIR TICKET
学会等に。正確・信頼の
KRK TRAVEL
㈱関西旅行研究会
京都市左京区吉田牛の宮町9
9 YOSHIDA-USHINOMIYA-CHO SAKYO-KU KYOTO 606
TEL075－751－1513(代)
今出川通　百万遍　関西旅行研究会　日仏会館　日伊会館　京都大学　東一条　文書　本屋　京大教養部　京大医学部

コース＋プラス555円で飲み放題!!
すき焼き食べ放題コース 2,800円
(特選牛肉・地鳥・野菜盛合・うどん・ごはん・一品盛合・デザート付)
得々宴会コース 2,800円より
味で勝負の
ちゃんこ恵那櫻（えなざくら）
全室個室
無料カラオケのある 京阪三条店
京阪三条駅東へ200m南へ10m
☎541－0900

―京大新聞の定期購読を―
学内唯一のマスメディア
京都大学新聞社

パレスチナ

和平と自治と土地と自由と

シャティーラ・キャンプでの虐殺の死者に寄り添ったジャン・ジュネの言葉を引くまでもなく、パレスチナについて今日わたしたちが普段目にし耳にしていることのほとんどは、具体的な個人が悩み苦しみ楽しんでいる状況を、数の大小や金額の多寡や犠牲者の多少によって表すことができるという奇妙な確信に基づいたものである。

　例えば「イスラエル政府が入植者用住宅を300戸建設決定」という報道が流される一新聞なら数百字、テレビならせいぜい1－2分のこと。毎日の生活からすればほんの一瞬に過ぎないかすかな情報との出会いにあって、イスラエル政府によって撤去される無数のパレスチナ民衆の住宅、彼らによって振りかざされる暴力に怒り悲しみ抗議しあるいは途方に暮れる人々のことを意識することは可能なのだろうか。

　見たことのない景色、会ったこともなければ聞いたこともない人のことを想像することなどできはしない。しかし住宅建設を強行し占領地域に対する経済封鎖をことあるたびにおこなうイスラエル政府の最高責任者＝ネタ―ニヤフ首相は、8月の末に日本を訪れ経済協力を呼びかけている。そしてこの2月には、イスラエルが占領中のゴラン高原への国連平和維持活動に対する自衛隊の第5次派兵が計画されている。

　イスラエルと日本との間には軍事的・経済的に不可分な関係が既に存在している。彼らの政策の対象となるのは、今回関西ではじめて上映する『エルサレム・石に刻まれた占領？』に登場するようなパレスチナの地で生活する個々人であり、イスラエル政府の占領政策に対して様々に抵抗するパレスチナ人たち、イスラエル人たちである。

　当日お話とカーヌーン（アラブ琴）の演奏をしていただく岡田剛士さんは、今回のビデオの日本語版作成も手掛けており、現在の被占領パレスチナと日本との関係について考え実際に行動を起こしている。彼は長年にわたってパレスチナ解放運動に関わり、関連文書の翻訳や現地での運動や映画・音楽などの紹介をする一方、ゴラン高原への自衛隊派兵に反対する行動にも積極的に参加している。

「写真は二次元だ、テレビの画面もそうだ、どちらも端々まで歩み通すわけにはいかない」（ジャン・ジュネ「シャティーラの四時間」）―だからこそこのビデオを観るだけではなく、実際に顔を付き合わせて話や行動（？）をする機会が必要なのではないだろうか。知ること聞くこと語ることの限界を云々する前に、まず出会ってみませんか（それは同時に出会えない人がいることに気付くことでもあるけれど）？ 当日、会場でお待ちしています。

講師　岡田剛士
上映　『エルサレム・石に刻まれた占領？』
22日(土)17時～
文学部新館第一講義室

CAFE UNDERGROUND

現実世界で虚構空間を立ちあげてみる

昨年に引き続き、法経館の東側地下スペースを利用し、コーヒー研究会主催によるカフェを営業します。コーヒー研究会では普段から様々な形態のカフェを学内、学外問わずゲリラ的に営業してきましたが、十一月祭期間中は地下で営業することにしました。と言うのも、普段のカフェは日常の中に「祭り」の場をつくり出し、日常性の破壊を演出することに主眼をおいて営業していましたが、NF期間中においては京都大学全体が「祭り」の場として形成され、人々はその「祭り」の中へと回収されてしまいます。このような回収に対し拒否の姿勢を貫くことを基本的立場とし、私たちコーヒー研究会はあくまで地下性に拘り、外とは一定断絶した形で十一月祭に参加したいと考えました。

　『カフェ／アンダーグラウンド』の名前は、クストリッツァの映画『アンダーグラウンド』から借用されたものです。映画『アンダーグラウンド』で描かれる地下は、外部から断絶され、戦争という現実から引き剥がされた壮大な虚構世界であり、その世界は（非常に現実感の希薄な）現実世界と鋭く対立するアイロニーでした。『カフェ／アンダーグラウンド』はこの精神を受け継ぎ、「祭り」に酔いしれ、ある意味、虚構を演じ続ける多くの学園祭参加者に対し、アイロニカルな立場を貫くことを目的として営業したいと考えています。

　従って、『カフェ／アンダーグラウンド』は誰にでも心地よく、くつろげる場を目指しているわけではなく、単なる「客」として立ち寄ろうとする者にとっては非常に居心地の悪い空間になるかもしれません。一方で、何らかの目的意識を持った人間に対しては広く開かれたカフェでありたいと考えています。また、雑多な人々が集い情報が錯綜する本来のカフェの機能もそれなりに尊重し、その契機としてガラパゴス・プロダクションと協力して映画の上映会も企画しています。現在のところイタリア映画を数本上映する予定ですが、プログラムは参加者の希望を聞き入れつつ調整したいと思います。カフェのメニューはコーヒー以外は基本的にありません。ストレートコーヒー数種とオリジナルブレンドを用意します。

　外でお祭り騒ぎが行われている間、半ば廃墟と化した法経本館地下でカフェを営業する私たちのスタンスに共感を抱き、この場を共有してくれる人々をお待ちしています。このような私たちの姿が単なる道化に過ぎないのか、あるいは「祭り」の世界に一石を投じる恐怖分子となるのか、それは当日訪れるであろう、あなた達にかかっているのですから。

cafe/
underground
from 11/21
to 11/24
Straight Coffee 200
or 250

未完の芸術革命

――ロシア・アヴァンギャルドを問い直す

11月22日（土）　午後2時より

大石雅彦
（早稲田大学教員）
貝沢哉
（早稲田大学教員）
崎山政毅
（京都大学教員）

ロシア・アヴァンギャルド‥

私／たちはこのことばと今まで幾度すれ違いつづけてきたことだろうか。そっと呟くように、あるいは幾分かの熱をもって口にされた「そのことば」のひらくのは、革命、コミュニズム、未来派、フォルマリズム、レフ。フレーブニコフ、ステパノーワ、マレーヴィチ、エイゼンシテイン、ヴェルトフ、そしてなによりもマヤコフスキー。

　果てしなく続く一連の名前と事柄の系列は、しかし、決して見通しのよい星座系を構成してはいない。あらゆる布置や概念化からどこか逃れて行くその煌めくプリズムと私／たちはいつ／いかにして出会うことができるのだろうか。そしてまた出会いはなぜかくも困難なのだろうか。

　『いまわれわれは、喜びとともに芸術の小文字の「われら」を共産主義の大文字の「われら」へと解放するために、自分たちの美に関わる仕事の正しさが認められることのみを期待する。』（「レフはだれにかみつくか」、一九二三）と宣言した「レフ」（芸術左翼戦線）。多次元的に個的な力を接合し、増幅することにより新たな芸術＝生活を生成しようとした「レフ」。例えば、そこに様々な力線のいきいきと交錯しあう場を垣間みることができた一瞬、私／たちは単純な驚愕を超え、無数の可能性の萌芽たちの共鳴しあうただなかに置かれた自分にふと気づく。文学、映画、演劇、造形などの様々な実践領域を多次元的に「コラージュ」する事によって生起し続けたその運動体、というよりはその可能態のうちがわの亀裂や位相差、方向のズレといったものをひとつひとつ大切に解析しなおしてみることで、もしかしたら「今」を異化する戦略がみえてくるのではないだろうか。

すれ違い続けた可能性 七十年後の検証の試み

「ロシア・アヴァンギャルド遊泳――剰余のポエチカのために――」を始めとする多数の著作において、アヴァンギャルドたちの芸術／革命を精緻に読み解く作業を進める大石雅彦氏。エトキント、グロイスといった現代ロシア思想家の活動を射程に入れつつ、ロシアに対する示唆的な考察を行っている貝澤哉氏。論攷「アンデスのアヴァンギャルド」（『ファシズムの想像力』収録）においてもみられるように、政治的実践の場と表現、そして私／たちのつながりが可能であるような領域への検証を続ける崎山政毅氏。

　本企画では上述の関心のもと、三氏のそれぞれの提起とその対話を通じ、多様な観点からこの生成複合の現場をとらえ返す機会を共有してゆきたい。また、「キノ・グラース（映画眼）」の概念を提示し世界＝運動の映画的解読をおこなったジガ・ヴェルトフ（一八九七－一九五四）監督の「カメラを持った男」（一九二九年公開）の上映も併せて行い、議論のひとつの契機として提供したい。

「ロシア・アヴァンギャルド」と総称されるなにものかが存在し得たとするなら、それは「鋭利な疑問符」としてでしかないのではないだろうか。だとするなら、その疑問符はつねに「現実」に向けられているのであり、「問い直」されているのは「私／たち」であり「ここ」であり、「今」であるのかもしれない。

KUWF

「ターザン山本講演会」

24日午後1時　法経4番教室

「総合大格闘技大会」

22日午後　お祭り広場

我々総合格闘サークルKUWFは、今年の大学祭において、「ターザン山本講演会」・「総合格闘技大会」の二つのイベントを企画しました。ここでは二つのイベントについて紹介させていただきます。

　まず、「ターザン山本講演会」についてですが、山本氏は、週刊プロレス、格闘技通信の元編集長でありまして、独特のプロレス理論をもち、多くのプロレス・格闘技ファン～支持を得ています。彼の記事は「活字プロレス」と呼ばれ、辛口な文章によって、プロレスマット界を影から活性化されているといっても過言ではないでしょう。

　昨年、長州力率いる新日本プロレスから週刊プロレスが取材拒否を受け、山本氏は記者として第一線を退き、最近ではフリーライターとしてプロレス氏のみならず、週刊SPA等の一般誌にも登場しています。また、最近ブームとなっている「K－1」の記事も書かれております。

　今回の講演会では、山本氏にもちろんプロレスについて語ってもらいます。最近のプロレス界、特に先日行われた高田vsヒクソン戦について、山本氏が熱く語ります。山本氏の文章に飢えている「ターザン山本信者」はもちろんのこと、プロレス、格闘技ファンは必見です。

　講演会終了後にサイン会があり、また、これは予定ですが、プレゼント抽選会もあるなど内容は盛りだくさん。これを見ずしてプロレスを語るなかれ。

　次に「総合格闘技大会」を紹介します。今年で六回目となりますが、年毎に京大内での注目度が増し、今年はいよいよステージで行うことになりました（二回目のみ）。三人の選手が引退してしまいましたが、今年もエース樫本真也をはじめ新生KUWFメンバーによる熱き闘いをお見せします。

　今年は二日間行い、初日は二十一日（金）午後一時より吉田グラウンドで開催。「97 KING OF KUWF」トーナメントを行います。注目はなんといっても人気、実力、共に急上昇中の高橋伯雄。彼がこのトーナメントでどこまで上位に食い込めるか。また、大学院生として特別参加の弘田陽介がトーナメントに参戦。昨年優勝の樫本のに連覇は微妙。

　二日目は二十二日（土）午後一時より京大吉田グラウンド特設ステージで開催。スペシャルマッチを中心に行います。他大学からの参加もあり、マニアにはたまらない〝佛教大のカリスマ〟田端裕介vs〝非プロレス宣言〟弘田陽介といった異色カードや異種格闘技戦などバラエティ豊かな興行となることでしょう。

　両日とも、KUWFメンバーは総出場。これを見たらもう二十世紀が終わってもいい。皆様のご来場をお待ちしております。

INFORMATION

●マイ・マイ・フェスティバル
日時：十一月十六日（日）十一時から十六時（雨天決行）／場所：大阪府同和地区総合福祉センター（JR「芦原橋駅」徒歩五分）／内容：プカソンコー（ペルー）、エイサー（沖縄）、サムルノリ（コリア）などのステージ・イベントやエスニック料理の出店多数／主催：九十七マイ・マイ・フェスティバル実行委員会／連絡先：〇六－九一〇－七一〇三

●キャンパス・セクシュアル・ハラスメント全国ネットワーク　第一回関西ブロック会議
日時：十一月十四日（金）午後六時～九時／場所：ウィングス京都（京都市中京区東桐院通り六角上がる。阪急・地下鉄四条烏丸駅より徒歩五分）／参加費：五百円／内容：報告「キャンパス・セクシュアル・ハラスメント全国ネットワーク」の取り組み、京都大学のセクシュアル・ハラスメントへの学生からの取り組み、他／連絡先：関西ブロック事務局　渡辺和子（TEL〇七五－七七一－五一〇五、FAX〇七五－七七一－四六六九）

●クロード＝ランズマン監督作品『SHOAH』上映会
日時：二月八日（日）／場所：京都北文化劇場（〇七五－四九三－〇五六七）／主催：エースピクチャーズ（東京都文京区本郷五－二十四－五）／連絡先：〇三－三八一七－六七一六

SMI EDI エディカラー COLOR 2.1
京都大学新聞は住友金属工業のEDIcolor2.1で製作されています。

もしもの時に…

つまらない授業中に、くだらない講演会に、ねむたいシンポジウムで、ひまな学会で、食堂で定食を食べるときに、喫茶店で人待ちのときに、勉強の合間に、授業の合間に、チケット取りに並ぶときに、通勤・通学のお供に、映画館で上映を待つときに、公園で昼寝をするときに、下宿でご飯が炊けるのを待つときに、試験の前に、試験の後に、雀荘で面子待ちのときに、ビデオゲームで目が疲れたときに、まんがを読み飽きたときに、教科書より面白いものを読みたいときに、最近の学生の考えを知りたくなったときに、おいしい珈琲を飲むときに、ジュースをこぼしてしまったときに、畳の湿気を防ぐのに、京大の雰囲気を味わいたいときに、天気の悪い日に、テレビの映りが悪いときに、ステレオが壊れたときに、洗濯がおわるのを待つときに、恋人からの電話を待ちくたびれたときに、団交の前に。
京大新聞はこんな時に役立ちます

京都大学新聞　〒606 京都市左京区吉田 京都大学構内
TEL075-761-2054／FAX075-761-6095
購読／広告のお問い合わせもお気軽に

銀閣寺　貝　黒潮丸
貝料理・活魚・割烹・伊勢海老料理ならおまかせ下さい！
★名代　冬の味覚　一貝鍋コース一　3500円
知多鶏の大あさり　桑名のはまぐり　的矢のカキ
貝柱とその他野菜の鍋　雑炊　デザート
★名物　一黒潮焼一　3500円
大あさり　はまぐり　カキ　車海老
サザエの炭火焼きのコース　雑炊付
お問い合わせは Tel(075)-771-8712 まで
小和室ございます・各種宴会おひとり 3000 円から・三十名程度の団体様のご予約も承り致します。

銀閣寺卍
大文字山
京都銀行
京都信用金庫
信号点滅
白川通り
今出川通り
バイカルケーキ店
錦林車庫
貝
吉田山

京都市左京区今出川通交差点南二筋下ル点滅信号西入
●営業時間 十七時から二十三時

入所日…毎土曜日
低料金で入所
スピーディに卒業
― 卒業生の事故率は極めて低く 学科合格率は高位を誇っています ―
普通車科技能コース
◎随時制…ご都合の良い時間を選べます
◎速成科…「合宿と同じ二十二日間で終了」を目標に一日二時限、ご都合の良い時間で
◎定時制…一日一時限、ご都合の良い時間を優先確保します
二輪車科技能コース
◎随時制…ご都合の良い時間を選べます
お申し込みは生協プレイガイド
京都大学よりバス送迎15分
-One of the most traditional in City!-
KOETSU DRIVER'S & RIDER'S SCHOOL
普通 二輪 光悦自動車教習所
親切、丁寧 確実な指導が 人気のマト！
まっさらなハートが走りだす
〒603 京都市北区大宮玄琢南町25　電話075-493-0101　千本北大路上るスグ

京都大学新聞
定期購読者募集中!!